



第137号

発行所 上高井教育会
 発行人 上高井教育会長
 山崎純
 編集人 山崎純
 黒岩英雄
 印刷所 須坂新聞社

初心にかえって

上高井教育会長 山崎 純



去る定期総会において、「われわれをとりまく状況はまことに厳しいものがある。かつてないほどの物質的な豊かさとは裏腹に、人の心は貧しく、子どもたちの心も育ちにくく、われわれに対する要請も一段と厳しいものがある。」と申しあげました。

四月九日の朝日新聞は、その社説において、「新学期に、先生たちへ」と題して「四月、新しい学期の始まりは子どもにとっても、また親にとっても、期待と不安が入り交じった時期だ。どんな先生に受け持たれるのだろうか。」という書き出しで、毎日楽しい学校生活をおくっていた小学校

三年生が、転校により卒業まで不登校になった経緯とそれにかかわった先生方を紹介した後、「新学期、先生たちになにより子どもの身になって考え行動してください、とお願いしたい。子どものことを心から好きで、一人ひとりの子どもを大切に先生を、子どもも親も望んでいる。」と強い期待を寄せています。

また、作家で詩人の出口直美子さんも、「忘れ物は何ですか」という見出しで、中学生の娘さんが、家庭科の忘れ物を家にとりに帰ってきたことにかかわって、そういう時とにかかわって、自分の日々の実践を問い直してみたいものだと思います。

新卒として赴任する直前、「教師として大事なことはいろいろあるが、一日も早く子どもの名前を覚えること、子どもの中に入りこむこと(よく遊ぶこと)だ、子どもは喜ぶぞ。つい昨日のように思い出します。

われわれは、子どもの指導において、最も重要なことは、子どもとの深い信頼関係や共感が基盤であることを承知しつつも、ややもすると、教師の側のみからの指導に陥りがちではないか、常に自己に問い直す姿勢が肝要ではないかと思えます。

思うのだが……、と述べています。

先生がたが教室で真摯に、一生懸命に毎日の実践にとり組んでいることを思う時、いろいろの批判を残念に思う反面、われわれに寄せられている期待の大きさをつくづく感じます。そしてもう一度初心にかえって、自己の毎日の実践を問い直してみたいものだと思います。

現在県下において解決を迫られている教育課題、すなわち、学力低下の問題、登校拒否の問題、非行の問題、高校中退の問題等を、もう一度自分自身の問題としてとらえ、子どもたち一人ひとりに学びながら実践を積み重ねていけば、道は開けると確信します。

三枝先生のご指導にもあつたように、「こうなればはしない、こういう姿でなければならぬ、こうあるべきだ等の価値観にとらわれることなく、子どもから働きかけてくるもの」を大切にしていきたいものです。

(墨坂中)

教育会だより

- 4・5 第1回代議員会。第2回選挙管理委員会。理事長選挙。第3回選挙管理委員会。
- 6 第2回代議員会。第4回選挙管理委員会。副理事長・監事・理事・信教常任委員・信交代議員選挙。第5回選挙管理委員会。
- 12 第1回常任委員会。研究委員会並びに同好会世話係会(1)。
- 13 研究総委員会。於須坂小学校。
- 16 講演会 中心講師 三枝孝弘先生(埼玉大学教授) 演題 「自己実現と授業のあり方」―事例からの示唆―
- 20 第1回研究委員会世話係委員長会。
- 23 教育会会計監査会。
- 25 第3回代議員会。新任者会員歓迎会。於教育会館。新任者会員21名。
- 26 第2回常任委員会。
- 28 同好会発足会。於須坂小学校。第1回同好会世話係会長会。於教育会館。
- 30 教育会定期総会・講演会。於須坂市民会館。
- 30 平成元年度会務報告並びに決算、平成2年度事業計画並びに予算の承認。
- 30 〇会員意見発表。
- 30 「須坂の商業からみた地域性の変容」 牛山 通高教諭(東中)
- 30 「子どもに学ぶ日々」 市川 和恵教諭(仁礼小)
- 30 講演会 講師 鴨 武彦(東大教授)
- 30 演題 「国際政治の構造変化と日本」―21世紀に向けての展望と課題―
- 30 第3回常任委員会。
- 30 第104回信濃教育会定期総集會。於松本市市民会館。参加者30名。
- 30 第4回代議員会。
- 30 第14回上高井教育会教育懇談会。於教育会館。45名参加。
- 30 上高井教育会報第137号発刊。



教育会総会と私

―教師の人的な広さととの関係について―

相原 修

去る五月二十六日(土)に毎年恒例の教育会総会が行われた。記憶が新しいうちにこの会について少し考えてみようと思う。

この会では何と言っても中心は講演にあると思うが、普段我々教師が聞く講演と少し違う点がある。教育についての講演でないという点である。昨年は確か環境についての講演であったように思うし、今

上高井にお世話になってから一年がたちます。昨年、一年生を担任していた私は、「生活科」を指向するという「合科・総合委員会」への参加を希望致しました。低学年教育を見つめ直す意味からも生活科における考え方の重要性を感じつつ、とかく怠け者の私は自分から勉強するところがなかなか出来ずにいるところでした。たまたま研究日の授業者として、他の先生方と共に勉強させて頂く機会を得て一年生の「家族」単元を三十一名の子どもたちと展開していきましました。慣れない中での模索は楽ではありませんでしたが、委員長の市川先生を

年は世界政治についてであった。

よく「教師は世間知らずだ。」というようなことを言われる。事の真偽はともかく、確かに毎日、学校の中にもわり切りで、聞く話といえはほとんど教育についての話という感じで、世の中の流れからは多少離れる面があるのかも知れない。そういった面からも、この

研究委員会との出会い

返町 孝子

始めとする小委員の先生方やその他の先生方に暖かく支えて頂いて、ハードルを一つ越えたような気がします。子どもに寄りそい、共に活動を深めていく中に、本物の学習が生まれ、そこに育ちがある、という共通理解の下で、日々の思いや不安を出しあい、教えて頂きました。そんな中で「生活科」で子どもに願う力と子どもを支える教師の姿勢という両面から、少しずつ何かが見え始めてきたように感じられ勇気がわいて参ります。子どもの可能性を信じ、その中で自分も学んでゆく二年度でありたいと思っています。(高山小)

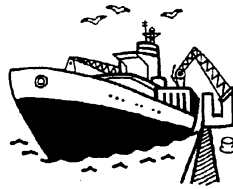
校章・校歌めぐり ⑧

高山小学校



高山小学校校歌

Musical score for the school song, including lyrics and musical notation.



(高山小)

ような教育以外の話を聞くという機会は大変貴重であると言えないではないか。教育の世界から少し離れて、もっと広い見地から世界を見ることもプラスに働くこともあるのではないだろうか。

最後に、来年は大学教授でなく、もっと違った世界の人話を聞きたいと思った。

私を育ててくれた地歴同好会

牛山 通高

(東中)

な時に地歴同好会の夏季巡検のおさそいがあり「これは一つ何か学んでこよう」と参加しました。今までに参加した巡検は、秋山郷・中央道沿線・奥只見・喜多方・塩の道などですが、その度に、地形を学ぶ楽しさ・植生のおもしろさ・これら二

喜多方の鉄道建設によるレンガ造りの蔵など、見るたびに感心するものばかりでした。この楽しさを何とか授業展開に生かせないものかと考えたのが、地形図着色による地図旅行であり、地図模型作りによる読図でありました。

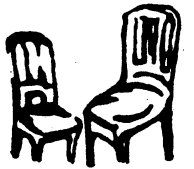


(東中)

校章は昭和五十一年、村内から広く図案を募集し、入選作品の意匠などを合成して決定された。清楚にして風雪に耐えぬく白樺の三枚の葉、強くたくましく育つようにとの願いがこめられている。三校の統合を象徴して三つの山(末広がり)は扇状地を表す)とをもって囲んだ中央に「タカ山小」の文字を図案化して表し、なお村の三方が山に囲まれ西が開けているのでその部分をあけている。高山小開校に先だつこと一年半近く前から、募集、検討を加えられた知恵の結晶である。

校歌は開校二年目の昭和五十四年の十月末に完成をみた作詞は藤沢真紀子氏、補作大日方千秋氏、作曲町田等氏によるものである。若草もえる 高井野に 緑の風が 吹いてくる 流れも清い 松川の 恵み豊かな ふるさとよ 自然にみちた 学舎に... 豊かな自然に囲まれたわがふる里を見事に謳い上げていく。二番は一転健やかにそして逞ましく互いに力を合わせてのびようとする願いを、そして三番出湯の里から羽ばたく大きな夢へと続く。(西山茂樹)

火ばら談義



土曜の映画TVコマーシャルをふと見て

—ダイヤモンドとアパルトヘイト—

島田 一生

憑かれたように朝方までビデオ映画を見続けていた昨年の秋の病的にも思える状態からやっと脱け出した今も、土曜日のTVで放映される映画番組はよく見ている。だからその番組のスポンサーもほとんど覚えていて、次はどの会社のCMかも見当がつくようになっていた。

実に不思議なことが、あのCMには存在する。その不思議さを挙げると次のようになる。

一、会社名がTV画面の隅に実に小さく出るだけのCM。
 二、その小さく出る会社名はその文字が画面に現れてから消えるまでが約二秒。
 三、映画は二時間枠で、一時間を区切りとして、スポンサーが変わるが、そのときには「ここまでの放送はごらんの各社がお送りいたしました。」というコメントと、「ここからの放送はごらんの各社の提供でお送りいたします。」というコメントが出るのだが、そのスポンサー一覽

新聞にあなたの記事が載っていました。千曲川の河原で行方不明になったって。皆でうんと捜したんだって。
 あなたは、ずっと流れて行って、数日たってから下流で見つけられたんだよね。去年のことだったな。

「せんせ、いっしょにいこー！」
 朝、学校の駐車場で行き会うつと、ニコニコ顔で待っていて、腕に取っついてきたよね。玄関に、先生方の上履を全部並べて迎えてくれたこともあったよね。ありがとね。

午後三時、今までの雑踏が波が引いたようになくなり、やっと静かなティータイム(そんな優雅なものではないのだが)が訪れる。なんとなく睡魔がおそってくるのもこの頃である。「ああ、今日もにぎやかな一日が終わったなあ。」など

「思いながしの仕事を片目ですらみながらため息をつく毎日である。」

朝、のんびりと駐車場から玄関へ歩いてくると、脇から「おはよう。」ととびついてくるY君、Kさん、Sさん、Mさん……ぼわあとした頭を

瞬間のうちに目覚めさせてくれる爆撃剤とも言える役割をしてくれる。そんな調子で、

S子さんへ

佐藤 一義

「ねえ、あそこに女の人は何人いる?」
 て聞いたの覚えてるかな。婦人警官の人など五人いたんだけど、じっとしてないで走り回っているあなたを、担任の先生が抱きとめて、

「ええ、あそこには二人しかいないんだから。正答は五人でそれ以外はない、と思っ

た僕は恥ずかしくなっ

てしまった。数え方っていろいろあるって教えてもらったよ。

あの時、五年生だったあなたは、他の五年生の友達と同じ勉強はできなかったかも知

ら。まあ、聖徳太子になれたらなあ。」と思っ

てしまっ

た。二ヶ月がすぎて、だんだん慣れ、行動パターンも定まっ

てきて、先生の言わんとすることも理解できるようになっ

てきた子ども達。頭も働いて、

「給食の車に遅れると歩いてもっていか

なきゃなら

ないんだよ。」

「先生、タニシが子ども生んだよ。」(他にもカエル、カタツムリ、さわがに等、名前がよくわからないものまでいろいろ飼っているのだが……)毎日こんな調子で、ひとと自分の言いたいことを言い終えた子どもたちが、元気に中庭に出ていくまで、

「先生、タニシが子ども生んだよ。」(他にもカエル、カタツムリ、さわがに等、名前がよくわからないものまでいろいろ飼っているのだが……)毎日こんな調子で、ひとと自分の言いたいことを言い終えた子どもたちが、元気に中庭に出ていくまで、

「先生、タニシが子ども生んだよ。」(他にもカエル、カタツムリ、さわがに等、名前がよくわからないものまでいろいろ飼っているのだが……)毎日こんな調子で、ひとと自分の言いたいことを言い終えた子どもたちが、元気に中庭に出ていくまで、

「先生、タニシが子ども生んだよ。」(他にもカエル、カタツムリ、さわがに等、名前がよくわからないものまでいろいろ飼っているのだが……)毎日こんな調子で、ひとと自分の言いたいことを言い終えた子どもたちが、元気に中庭に出ていくまで、

「先生、タニシが子ども生んだよ。」(他にもカエル、カタツムリ、さわがに等、名前がよくわからないものまでいろいろ飼っているのだが……)毎日こんな調子で、ひとと自分の言いたいことを言い終えた子どもたちが、元気に中庭に出ていくまで、

「先生、タニシが子ども生んだよ。」(他にもカエル、カタツムリ、さわがに等、名前がよくわからないものまでいろいろ飼っているのだが……)毎日こんな調子で、ひとと自分の言いたいことを言い終えた子どもたちが、元気に中庭に出ていくまで、

「先生、タニシが子ども生んだよ。」(他にもカエル、カタツムリ、さわがに等、名前がよくわからないものまでいろいろ飼っているのだが……)毎日こんな調子で、ひとと自分の言いたいことを言い終えた子どもたちが、元気に中庭に出ていくまで、

「先生、タニシが子ども生んだよ。」(他にもカエル、カタツムリ、さわがに等、名前がよくわからないものまでいろいろ飼っているのだが……)毎日こんな調子で、ひとと自分の言いたいことを言い終えた子どもたちが、元気に中庭に出ていくまで、

「先生、タニシが子ども生んだよ。」(他にもカエル、カタツムリ、さわがに等、名前がよくわからないものまでいろいろ飼っているのだが……)毎日こんな調子で、ひとと自分の言いたいことを言い終えた子どもたちが、元気に中庭に出ていくまで、

「先生、タニシが子ども生んだよ。」(他にもカエル、カタツムリ、さわがに等、名前がよくわからないものまでいろいろ飼っているのだが……)毎日こんな調子で、ひとと自分の言いたいことを言い終えた子どもたちが、元気に中庭に出ていくまで、

「先生、タニシが子ども生んだよ。」(他にもカエル、カタツムリ、さわがに等、名前がよくわからないものまでいろいろ飼っているのだが……)毎日こんな調子で、ひとと自分の言いたいことを言い終えた子どもたちが、元気に中庭に出ていくまで、

「先生、タニシが子ども生んだよ。」(他にもカエル、カタツムリ、さわがに等、名前がよくわからないものまでいろいろ飼っているのだが……)毎日こんな調子で、ひとと自分の言いたいことを言い終えた子どもたちが、元気に中庭に出ていくまで、

「先生、タニシが子ども生んだよ。」(他にもカエル、カタツムリ、さわがに等、名前がよくわからないものまでいろいろ飼っているのだが……)毎日こんな調子で、ひとと自分の言いたいことを言い終えた子どもたちが、元気に中庭に出ていくまで、

「先生、タニシが子ども生んだよ。」(他にもカエル、カタツムリ、さわがに等、名前がよくわからないものまでいろいろ飼っているのだが……)毎日こんな調子で、ひとと自分の言いたいことを言い終えた子どもたちが、元気に中庭に出ていくまで、

「先生、タニシが子ども生んだよ。」(他にもカエル、カタツムリ、さわがに等、名前がよくわからないものまでいろいろ飼っているのだが……)毎日こんな調子で、ひとと自分の言いたいことを言い終えた子どもたちが、元気に中庭に出ていくまで、

「先生、タニシが子ども生んだよ。」(他にもカエル、カタツムリ、さわがに等、名前がよくわからないものまでいろいろ飼っているのだが……)毎日こんな調子で、ひとと自分の言いたいことを言い終えた子どもたちが、元気に中庭に出ていくまで、

「先生、タニシが子ども生んだよ。」(他にもカエル、カタツムリ、さわがに等、名前がよくわからないものまでいろいろ飼っているのだが……)毎日こんな調子で、ひとと自分の言いたいことを言い終えた子どもたちが、元気に中庭に出ていくまで、

「先生、タニシが子ども生んだよ。」(他にもカエル、カタツムリ、さわがに等、名前がよくわからないものまでいろいろ飼っているのだが……)毎日こんな調子で、ひとと自分の言いたいことを言い終えた子どもたちが、元気に中庭に出ていくまで、

「先生、タニシが子ども生んだよ。」(他にもカエル、カタツムリ、さわがに等、名前がよくわからないものまでいろいろ飼っているのだが……)毎日こんな調子で、ひとと自分の言いたいことを言い終えた子どもたちが、元気に中庭に出ていくまで、

思いつくままに

柳沢美和子

「先生、タニシが子ども生んだよ。」(他にもカエル、カタツムリ、さわがに等、名前がよくわからないものまでいろいろ飼っているのだが……)毎日こんな調子で、ひとと自分の言いたいことを言い終えた子どもたちが、元気に中庭に出ていくまで、

編集後記

(小布施中)

学校のプールからも、夏の声が届かされる季節になりました。本年度一三七号から出発する会報をお届けします。

お忙しい中、原稿をお寄せ下さいまして、ありがとうございます。尚、本年度は次のメンバーで会誌、会報をお届けいたします。よろしくお願ひします。

- 委員長 黒岩 英雄 (高南小)
- 副 滝澤 祥匡 (小山小)
- 田中 義人 (須坂小)
- 朝間 春子 (日滝小)
- 神林 信雄 (高南小)
- 市川 治利 (旭ヶ丘小)
- 小野 英幸 (井上小)
- 小林 雅彦 (相森中)
- 武田 洋幸 (墨坂中)
- 牛山 通高 (東中)
- 信教 牛山 神林 (小野)